

令和元年度アクションプラン重点事項に対する評価

(1) 業務効率化と魅力向上

- ・富山県の歴史、文化、自然など、郷土の理解に役立つ資料を広く収集します。また、電子版行政資料の継続的収集・提供に努めます。
- ・高齢化社会、障害者サポートに対応するため、大活字版図書を継続的に収集します。
- ・小学校における英語教育の早期導入と教科化を見据え、英語絵本や英語多読資料の収集に努め、新たな提供方法を検討します。
- ・レファレンスサービスを充実し、利用者に満足してもらえる資料や情報を提供していきます。さらに、ビジネス情報や社会生活に必要な情報に手軽に接することができるよう、雑誌スポンサー制度を充実します。
- ・高度な図書館サービスを目指し、各種研修会への参加を通じて、図書館職員の資質の向上を図ります。また、実践的な研修の機会を提供して、県内図書館支援を強化します。
- ・アクションプランを毎年見直し、県立図書館の中長期のあり方を図書館内で検討します。

○富山県への理解を深めるための資料を、県内各機関から令和元年度は2,956冊(2月末)を収集した。今後とも出版情報を把握して、資料の網羅的な収集を心掛けていく。平成29年度から県刊行物の行政資料デジタル公開サービスを開始し、電子版行政資料の収集・保存に努めている。(登録件数55件)

○大活字本は新たに1,264冊(2月末)収集し、閲覧コーナーの移動及びスペース拡充を行った。

○英語絵本とそれに対応する日本語版絵本、および英語多読本の収集を行い、公立図書館等へのセット貸出の準備を進めた。

○レファレンスサービスに不可欠な参考図書や基本図書の充実に努めた。また、レファレンスサービスにおいては、専門的で複雑な調査も含め13,072件を処理した(2月末)。なお、令和元年度のスポンサー雑誌は34社、39誌であった。(平成30年度:34社、39誌)

○東海北陸地区図書館地区別研修、全国図書館大会等の研修会に職員が積極的に参加し、資質向上に努めた。また、研修に参加した職員が館内の職員に伝達講習を行うなど、収集した知識や情報の共有化を図った。

○県立図書館のあり方では、近年の利用者数・貸出冊数の減少傾向への対応として、図書館の活性化に向けた館内での検討をもとに、書庫内資料を紹介する「新書」「全集」のミニ展示を行い、貸出冊数増につなげた。

(2) 地域情報発信と情報化

・地域研究やふるさと教育を推進するため、富山県に関する企画展示を定期的に行います。また、それらに関する文献リストやパスファインダーを作成し、県民に提供します。

*パスファインダーとは、あるテーマに関する資料や情報を探すための手段を紹介するもの。

- ・広く県民に情報発信するため、SNS(Twitterなど)を活用した広報を推進します。
- ・郷土に関するレファレンスデータを蓄積し、地域情報の共有化を図ります。
- ・図書館見学ツアーや図書館活用セミナーなどを実施し、図書館利用の普及啓発を行います。
- ・情報プラザのシステムを更新し、調査研究環境の維持、サービスの向上を図ります。

○企画展示では、子どもの読書週間企画展示「外国語の絵本を読んでもみよう」や改元にとまなう「さようなら平成」のほか、郷土ゆかりの「瀧口修造へのいざない」などを実施した。また当館の呉

羽移転 50 年を記念し、当館のあゆみとともに、呉羽地区の自然・歴史等も紹介した。いずれの展示も文献リストの作成や過去のリストの紹介により、関連図書の貸出促進につなげた。（展示関連図書貸出数：1,317 冊）

- 地域情報発信ホームページ「まいふれ」を活用した広報のアクセス件数は、3,860 件であった。また、Twitter による利用案内、企画展示等の行事案内、特設文庫の紹介、館報の記事紹介等、随時情報発信に努めた。ツイート数 1,330（通算 3,826）、フォロワー数 565 であった（2 月末）。
- 歴史的事実の確認など、郷土に関するレファレンスデータの蓄積に努めた。今後は、蓄積したデータの活用を図り、さらなるサービスの向上に努める必要がある。
- 図書館見学の実施により、県立図書館の機能や書庫の状況を理解してもらうことができた。今後とも、書庫に所蔵されている図書の利用や、レファレンスサービスをはじめ各種サービスの活用を利用者に促すなど、図書館利用の幅を広げる取り組みが必要である。
- 情報プラザのシステム等の更新により、検索機能の向上を図った。
- 郷土博物館や立山博物館などに当館資料の特別貸出（26 件 123 点）を行い、郷土資料の活用を図った。また、郷土研究者やメディア等から郷土資料の掲載許可申請を受け付け（52 件 139 点）、調査研究機関として地域情報発信に努めた。

(3) 学校教育への支援、関係機関等との連携とネットワークの構築

- ・高志の国文学館での図書受渡サービスを継続し、利用者の利便性向上を目指します。
- ・ふるさととやま 100 冊の本をはじめとして、県立学校等図書館への団体貸出を推進します。
- ・公共図書館間及び高等教育機関との連携を強化し、遠隔地利用者の利便性向上や広域的な相互貸借の充実を図ります。
- ・東海北陸地区公共図書館研究集会を開催し、成果を連携・サービスの向上につなげます。
- ・大学図書館と連携して「富山ビギナー講座」などに協力し、図書館の魅力を発信します。
- ・県議会図書室と連携し、行政機関が求める資料や情報の提供に努めます。
- ・講演会や企画展示・雑誌スポンサー制度等を通じて、関係機関や企業との連携を図ります。
- ・図書館見学・14 歳の挑戦・図書館実習等を受け入れ、図書館における学びを支援します。

- 高志の国文学館での受取返却件数は、22 件 75 冊。今後も高志の国文学館での受取返却サービスの周知に努める必要がある。
- 県内高校等の団体貸出登録は学校数が 36 校と 4 校増え、貸出数は 310 冊であった。また、高校への出張展示や、学校司書研修会での意見交換等を行った。今後も様々な機会を通して周知し利用促進を図っていく必要がある。
- 『「図書館」と「まち」と「人」を元気にする』を主題に、東海北陸地区公共図書館研究集会を開催した。事例発表、研究討議をとおして新たな知見を得た。今後の活動に活かすことが求められる。
- 富山大学附属図書館（中央図書館・医薬学図書館・芸術文化図書館）と連携し、富山ビギナー講座を開催した。
- 議会図書室を通じた図書の受取返却は 5 件 14 冊であった。今後とも議会図書室を通じた受取返却サービスの周知に努め、行政機関に役立つ図書館情報を発信する必要がある。
- 行政機関と連携した企画展示を実施した（「里親制度」の普及、がん征圧月間関連等）。
- 雑誌スポンサー 34 社から 39 誌の提供を受け、配架することができた。今後は、スポンサー企業など経済界をはじめ様々な分野との連携を図る必要がある。
- 中学生の 14 歳の挑戦や、高校生・大学生等の職場体験学習(インターンシップ)など、11 名を受け入れた。今後とも、図書館における実習等に積極的に協力していく必要がある。